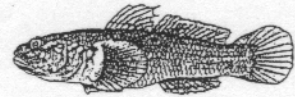




ウキゴリ

## なぜ、漁獲量は減ったか - 7

## ハゼ類 (1)



ヌマチチブ

ハゼ類の漁獲量は図1に示したように、多い年には霞ヶ浦で約4400トン（昭和53年（1978））、北浦で約700トン（昭和43年（1968））もあり、霞ヶ浦北浦では重要な位置を占めていました。

しかし、霞ヶ浦北浦ともに漁獲量は減少し、平成6年（1994）には霞ヶ浦で890トン、北浦では60トンと、先の最大漁獲量との差は、霞ヶ浦では約3500トン、北浦では約700トンと、非常に大きな減少となっています。

これは最大漁獲量との差ですが、好漁期の昭和50年代初期の、平均的な漁獲量（霞ヶ浦で約2500トン、北浦で約300トン）と比較すると、霞ヶ浦で約1600トン、北浦で約240トンの漁獲減となります。

ところで霞ヶ浦北浦で漁獲されるハゼは、ヌマチチブ、ウキゴリ、ジュズカケハゼ、アシシロハゼ、ヨシノボリ等がありますが、この内約90%前後を、ヌマチチブとウキゴリで占めているのは、昔も今も変わっていません。

ヌマチチブの産卵期は5~8月、ウキゴリは3~4月と、約3ヶ月前後の違いがあります。

また、ヌマチチブの平均漁獲体重の大型のものは約3g、一方、ウキゴリの平均漁獲体重の大型のものは約10gと、ヌマチチブに比較して、漁獲されるウキゴリの魚体は、約3倍以上も大きいことになります。

しかし、図2の霞ヶ浦の例（以下、霞ヶ浦を例に述べていきます。）にみられるように、ヌマチチブとウキゴリの漁獲される割合が、昔（1976-87）と近年（1988-94）では異なっていることがわかります。

すなわち、かつてはヌマチチブに対して、大型になるウキゴリの方が、多く漁獲されていたのに対し、近年では逆に、小型のヌマチチブの漁獲される割合の方が高くなっています。

図3に、好漁期の昭和46~50年（1971~75）と、漁獲量が減少した昭和59~平成4年（1984~92）について、ウキゴリ及びヌマチチブの漁獲尾数と漁獲重量の推移を示しました。

これによると既に述べたように、近年ではウキゴリの漁獲尾数が、約65%も減っているのに対し、ヌマチチブの漁獲尾数は、約1.8倍と大幅に増加しています。

しかし、これを漁獲重量でみると、ヌマチチブの漁獲重量は約23%の減少、一方、ウキゴリの漁獲重量も、約71%の減少と非常に大きくなっているために、ハゼ類全体の漁獲量としては、約43%も低下している結果となっています。

ヌマチチブに比べて魚体の大きい、ウキゴリの漁獲尾数が少なくなったことと、ヌマチチブの漁獲サイズの小型化が、ハゼ類の漁獲量減少の、直接の原因ではないかと推測していますが、これについては次回で、もう少し詳しく検討してみたいと思います。

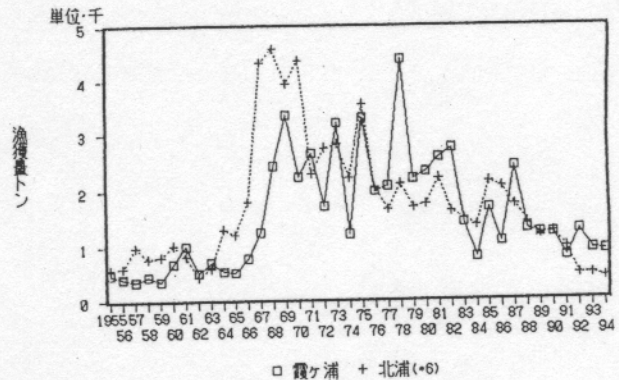


図1 ハゼ類の漁獲量

□ 霞ヶ浦 + 北浦(×6)

上:ウキゴリ 下:チチブ

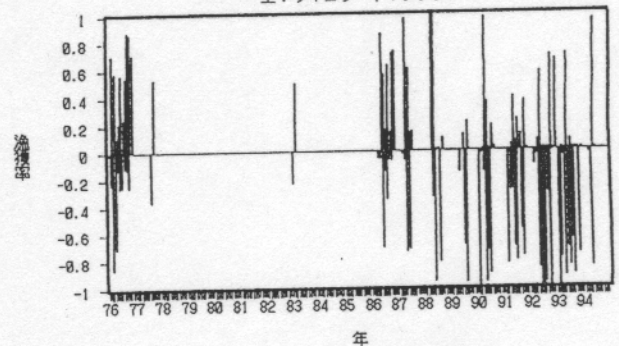


図2 ヌマチチブとウキゴリの漁獲割合（重量比）

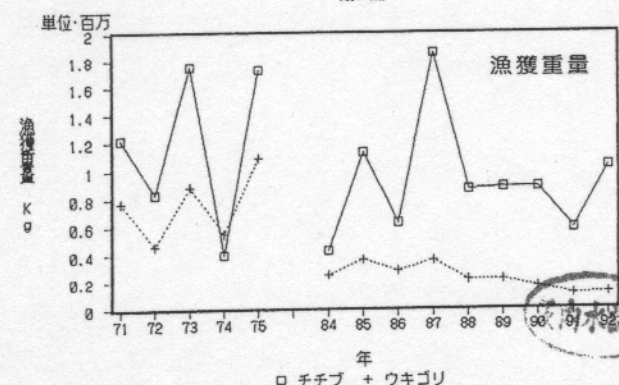
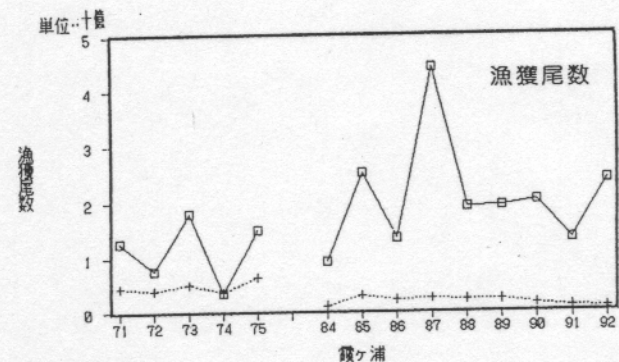


図3 ヌマチチブとウキゴリの漁獲尾数と漁獲重量の推移